

岡山城の水草

「蓮は平和の象徴なり」とは、岡山県出身の有名な植物細胞学者の大賀一郎博士の言葉である。蓮はインド原産のハス科多年性水生植物。「蓮は泥より出でて泥に染まらず」とは中国の成句。仏教では泥の中から清浄な美しい花を咲かせる姿が仏の智慧や慈悲の象徴とされてきた。仏像の台座には蓮華をかたどった蓮華座をはじめ、蓮の花に纏わる仏具も多く飾られている。

また蓮とよく似た水草に睡蓮がある。共に大きく美しい花を咲かせる。こちらのほうは西洋画家のクロード・モネの作品に多く描かれていて有名だ。パリのオランジュリー美術館の入り口にはモネの睡蓮が展示されており、その大壁画の迫力に圧倒されたのは私一人ではないはずだ。

ここ岡山城は宇喜多秀家が豊臣秀吉の指導を受け、8年の歳月を費やして1597（慶長2）年に完成している。二重の内堀、中堀、外堀とこれら城域を掘割で多角的に区画。その後、市街地整備で多くの堀が埋められ今の岡山市の地形となっている。

本丸を囲む内堀にはこの季節水草が所狭しと群生していた。そこに白鳥2匹が生息している。普通の白鳥は晩秋から初冬にかけて渡来し、春にはオホーツク海沿岸やシベリヤに飛去する渡り鳥であるが、ここの白鳥は居心地の良いこの堀で常住しているようだ。水草が豊富な餌を与えてくれる。ここは素晴らしい共存の場所なのだ。

撮影 2011 年秋



